## IPv6/IPv4相互接続技術の概要、実装、運用

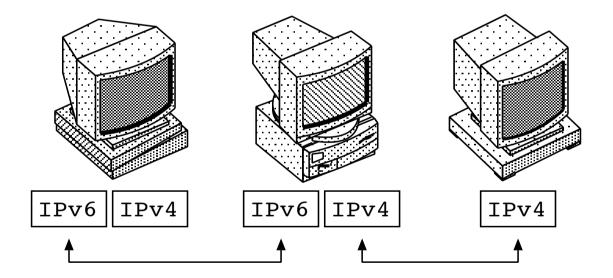
角川 宗近 (株)日立製作所 / KAMEプロジェクト sumikawa@sumikawa.jp

#### IPv4からIPv6への移行技術は必須

- ■インターネット中のマシンを一度にIPv6対応にはできない
- ■IPv4とIPv6を通信させる技術を確立する必要がある
- ■二つのアプローチ
  - エンド-エンドが直接通信するアプローチ
    - デュアルスタック
    - ■トンネル
  - トランスレータ経由で通信するアプローチ
    - ■ヘッダ変換
    - ■トランスポート中継
    - ■代理アプリケーション

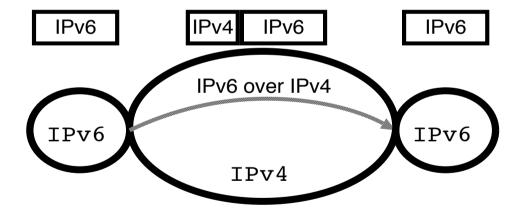
# デュアルスタックとトンネル(1/2)

- ■デュアルスタック
  - ●一つの機器にIPv4とIPv6の両方を実装する
    - ■IPv4しか対応してない機器とはIPv4で通信
    - ■IPv6に対応している機器とはIPv6で通信



## デュアルスタックとトンネル(2/2)

- ■トンネル
  - ●離れたIPv6の島を結ぶ技術
  - プロバイダによる実験トンネル提供サービス
    - OCN, IIJ
    - http://www.freenet6.net/

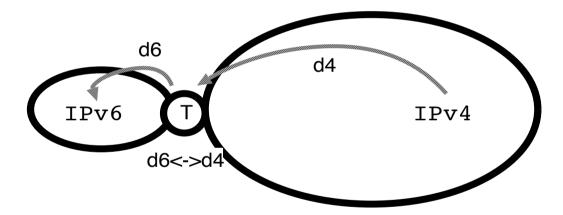


#### トランスレータ

- ■IPv4機器とIPv6機器が通信する必要性
  - デュアルスタックでもアドレスが足りなければIPv4アドレスをつけれない
  - これから登場するIPv6専用端末
- ■完璧なトランスレータは存在しない
  - 限定条件で使えるトランスレータは幾つかある
    - ■状況、移行時期に応じて使い分けるしかない
  - トランスレータを使わないにこしたことはない
    - IPv6の本来の目的であるエンド-エンドのフラットな通信を壊す
- ■トランスレータを整理、体系化する必要性
  - プロトコル変換の技術によるパターン分け

### トランスレータが不得意な状況

- ■サイト外からのアクセスは難しい
  - サイト内のアドレスが足りないため動的なマッピングが必要
    - DNSキャッシュ
    - ■マッピング用のアドレス枯渇
    - ■マッピング開放のタイミング



- ■IPv6 -> IPv4 はNATと同程度の使い方が適している
- ■IPv6間は直接通信

## トランスレータの分類

- ■プロトコル変換の技術
  - ・ヘッダ変換
  - トランスポート中継
  - 代理アプリケーション

### ヘッダ変換

- ■ヘッダを入れ替えて転送
- ■チェックサムをヘッダの分だけ補正
- ■ftp問題
- ■ICMPのセマンティクスが違う
- ■v4->v6変換時に20バイト増えるので分割しないといけない
- ■UDPゼロチェックサム問題

### トランスポート中継

- ■コネクションを横取りして、張り直す。
  - ●ファイアウォール、WWW横取りキャッシュ
- ■ftp問題はあるが、比較的簡単
- ■2本のコネクションを扱う時(rsh等)にやや大変
  - プロトコルごとにケアしないといけない

#### 代理アプリケーション

- ■運用で実現したトランスレータ
- ■トランザクション・サービスを転送
- ■プロトコル的に代理サービスをサポートしている必要がある
- ■ftp問題なし

## 既存の実装(1/2)

- ■NAT-PT(KAMEプロジェクト、日立)
  - ヘッダ変換による通信
  - NATの自然な拡張
- ■FAITH(KAMEプロジェクト)
  - トランスポート中継
  - ●コネクション管理にPCBを用いている
  - ・実装が容易
- ■SOCKS(富士通研、NEC)
  - SOCKSを用いている組織に導入しやすい
- ■Toolnet6(日立)
  - Bump in the stack方式
  - ●セルフ・トランスレータによるデュアルスタックの実現
    - IPv4アプリケーションが自動的にIPv6対応になる
  - モデル的にはトランスレータではない
  - ヘッダ変換

# 既存の実装(2/2)

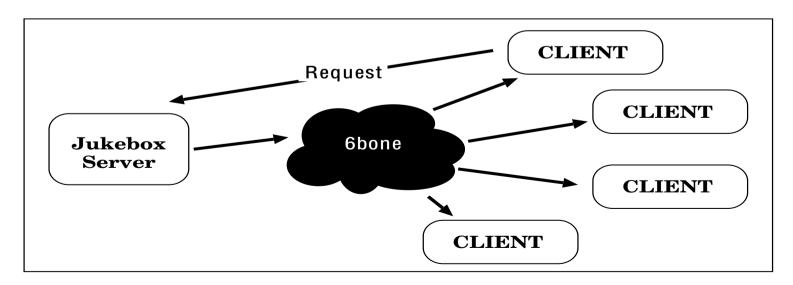
- apache、 sendmail、 bind ...
  - ●代理アプリケーション

#### まとめ

- ■IPv4からIPv6への移行技術は必要
- ■デュアルスタックとトンネルが最も望ましい
- ■一部の状況下ではトランスレータが利用できる
  - ●ヘッダ変換
  - トランスポート中継
  - 代理アプリケーション
- ■状況に応じて使いわける必要がある

#### MP3 ジュークボックス

- ■MP3データをUDP over IPv6マルチキャストで配信
  - IPsecで暗号化
- ■曲リクエストも可能
  - ●曲名一覧取り寄せプロトコル
  - 曲リクエスト・プロトコル
  - リクエスト・キュー確認プロトコル
- ■CGIも用意、Webベースによるリクエスト



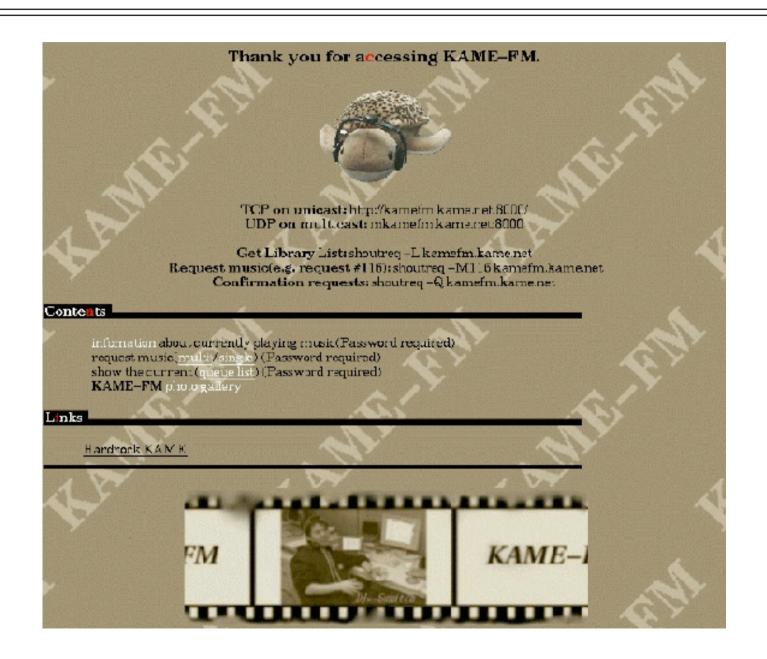
#### なぜMP3か?

- ■圧縮率が高いため、広域に放送できる
  - ●128kbpsでCDクオリティ
- ■サーバ、クライアントが構築しやすい
  - エンコーダ、デコーダが豊富にある
  - サウンド機能さえついていれば気軽に楽しめる
- ■ユーザが導入しやすいため、広域なマルチキャスト実験ができる

### 実装

- ■サーバ
  - ●icecastを改造
    - http://www.icecast.org/
    - ■元はIPv4のHTTPを用いてMP3を配信
    - ■KAMEプロジェクトでIPv6化 + UDP化 + マルチキャスト化
    - ftp://ftp.kame.net/pub/kame/misc/
- ■クライアント
  - mpg123(コマンドライン)
  - wmmp3(GUI)
  - mcastread (UDP -> stdout)
- ■KAMEプロジェクトで運用テスト
  - KAME FM
    - J-POP中心
  - Hard Rock KAME
    - ■洋物メタル系

#### KAME FM



#### Hard Rock KAME

